

# 神福とコンシェルジュ

子育て支援の現在地

「子育てしやすいまち」と市外からも評判の神栖市。安心して子どもを産み育てることのできる行政サービスや施設が充実しています。今回は、市独自の医療費助成制度「神福」と、子育てコンシェルジュにスポットを当て、神栖市の子育て支援に迫ります。



## 豊かな環境で子育てを応援

子どもは地域の宝。子どもたちの元気な姿は、まちに活気をもたらします。神栖市は、人口に占める子どもの割合が県内第5位と、子どもが多いまちです。また、児童館の数が県内第2位、公園の面積が県内第3位と、豊かな子育て環境が整っています。市では子育て支援に力を入れており、毎年発行する『子育てガイドブック』には、妊娠・出産・子育てをサポートする制度や施設が約50ページにわたり、ぎっしりと掲載されています。関係する部署も子育て支援課、健康増進課、保健予防課、国保年金課、こども福祉課、第一学校給食共同調理場、学務課、住宅政

策課と多岐にわたり、まさに市を挙げて子育てを応援しています。

## 医療費を助成する「神福」

さて、妊娠中は産科・婦人科、子育て期には小児科と、若いファミリーは何かと通院する機会が増えるもの。日本は国民皆保険制度により医療費の負担は1〜3割と決まっていますが、それに加え県や市などの医療費助成制度があるため、実は住んでいる自治体によって医療費の負担が異なります。

神栖市には、医療費の負担を軽くする独自の制度「神福」があります。これは、県の制度である「マル福」に乗せして、医療費を助成するもの。そもそもマル福とは、小児、妊

産婦、ひとり親、重度心身障害者が保険診療を受けたときに医療費を助成する制度です。

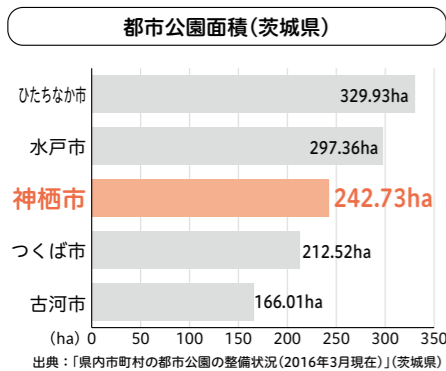
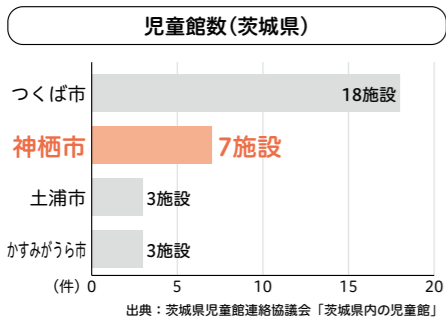
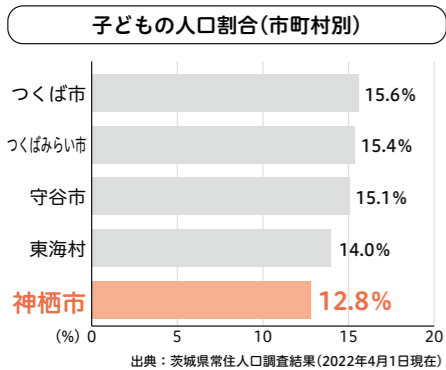
このマル福と神福ができたのは1973年。それから50年の間に神福は徐々に支給する対象を拡大し、より多くの人が医療を受けやすい制度へと進化してきました。特に、所得制限がまったくないのは、県内では神栖市を含めて2つの市だけです。子育て中のひとり親も助成を受けられます。

妊産婦への助成も手厚くなっています。マル福の場合は妊娠・出産に関連する産科・婦人科の受診に限られますが、神福はそれ以外の疾病でも大丈夫。また分娩者手当金として、子ども1人につき2万円が支給されます。さらに、中学生

先駆けて行なっています。マル福の場合は小学6年生までなので、その後の6年間は神福でカバーできます。

## 子どももママも神福を活用

周囲の人に神福について尋ねてみると、「出産のときは何かとお金がかかりますが、歯医者など産科以外にも受診しやすいですね」「中高生になっても、医療費の心配がないので助かります」など、長い期間活用しているという声が多く聞かれました。また「他のまちでは、所得が高いと補助が受けられないことがあります。神福はそんな人でも対象で助かっています」という声も。みんなが安心してお医者さんに行ける、と感じているようです。



## 「神福」誕生から50年！

1973年、医療費の負担を軽減するために生まれた神栖市独自の制度です。社会ではオイルショックが起こった年です。市内では息栖大橋が完成、神之池緑地がオープンしました。神栖市は50年前から子育て支援を大切にしてきました。

と高校生の外来受診の助成も、他の自治体に

